

第2特集

月経痛・ PMSを診よう

月経痛・PMSで困っている女性はたくさんいる

日本人を対象としたアンケート調査では、月経痛や月経前症候群(premenstrual syndrome : PMS)を自覚していても66～81%の女性は産婦人科を受診できていないと報告されています^{1, 2)}。

月経痛・PMSにより生活に支障をきたし、鎮痛薬などによるコントロールも不良で困っている女性はたくさんいるのに、産婦人科を受診できていないのが現状です。一方で、プライマリ・ケアの先生から「どんなときに産婦人科受診を推奨したらいいかわからない」という声も多く聞かれます。

本特集では、月経困難症とPMSの治療となる低用量ピルや女性ホルモン製剤の効果や使い方、そして産婦人科へ紹介する目安を解説しました。本特集がプライマリ・ケア医と産婦人科医が連携する一助となり、少しでも月経痛・PMSで困っている女性を減らせることを願っています。

編集幹事

淀川キリスト教病院 産婦人科 柴田綾子

参考文献

- 1) 厚生労働省：令和5年度厚生労働科学研究費補助金 女性の健康の包括的支援政策研究事業。女性の健康課題に関する疫学研究 日本人女性の月経困難症・月経前症候群の罹患率と受診率と情報源に関するアンケート調査。2023。
- 2) 西岡笑子，他：働く女性の健康に関するWeb調査 ―女性特有症状とその対処およびがん検診受検状況 正規雇用と非正規雇用の比較。順天堂保健看護研究，12：12-23，2024。